

【リテラシーレベル】2025年度 自己点検・評価について(2026年度公開)

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 

データサイエンス教育推進センター
------------------

(責任者名) 浅井 学  
(役職名) データサイエンス教育推進センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>・2025年度生の履修・単位修得状況においては、合計1,248名のうち1,153名が合格し、不合格者は36名、未履修者は59名で、単位修得率は92.4%となっている。</p> <p>・一方で、各入学年度において、1年時の単位未修得者および未履修者がそれぞれ3~7%となっており、特に未履修者においては、1年時の必修科目という位置づけを踏まえ、その割合を減らす対策(広報強化や個別フォロー、各学部初年次教育担当者との連携等)を引き続き、検討する必要がある。</p>
学修成果	<p>・2025授業アンケート結果より、ラーニングアウトカムズの伸長・向上実感について、「よく感じた」「ある程度実感した」が88.8%を占めており、2024年度と同様、高水準を維持していることが確認された。</p> <p>・大規模クラスでありながら、反転授業とジグソー法を組み合わせたアクティブラーニングを導入することで、知識の定着にとどまらず、個別事例から共通構造を抽出し、具体的な対策案を導き出すという、高次の批判的思考力・課題解決力の育成を行っている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>・2025授業アンケート結果より、授業内容の理解について、「とてもそう思う」「ある程度そう思う」が約90%を占めており、2024年度と同様、高水準を維持していることが確認された。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>・授業を受講して満足した項目について、「知的興味が高まった」「新しい知識が身に付いた」「課題をやり遂げる醍醐味を知った」の割合が比較的高い傾向を示していることが確認された。</p> <p>・ジグソー法を用いた協同学習により、フリーライダー(ただ乗り)を抑制しつつ、一人ひとりの発言責任を明確化したことで、学生同士が多様な視点を突き合わせながら深く学び合う風土が形成され、高い満足度と推奨度に繋がっている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>学習動機の維持 : シラバスの工夫として、専門用語の平易化と学問分野ごとの具体例を明示したことで、学生の学習意欲向上に繋がった。</p> <p>英語による開講 : 留学生やEnglish Medium Programs(EMP)の学生を対象に、同科目を英語で開講している。</p> <p>入学前教育(内部進学予定者) : 内部進学予定者(約200名)に対し、10月~2月にオンライン授業を実施。修了者は入学後の単位として認定している。</p> <p>興味関心の喚起(全合格者) : 全合格者向けに紹介動画を公開し、入学前からデータサイエンスへの関心と理解を促す機会を提供している。</p> <p>&lt;実施成果&gt; 1年時の履修・単位修得率は毎年90%を超え、令和7年度までに累計5000名以上の履修を達成。全学的に基礎的なデータサイエンスの知識を学べる環境を幅広く提供できた。</p> <p>&lt;今後の課題&gt; 未履修・未修得者の3~5%削減が課題。広報強化や個別フォロー、学部間連携を通じ、履修推進の徹底を検討する。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>進路状況は、就職が85.5%で最多となっている。次いで大学院への進学が11.8%、専修学校・外国の学校等への入学者が2.8%であり、約9割が就職を選択している。</p> <p>業種別では、医療業・保健衛生の83人を筆頭に、学校教育が79人、その他のサービス業が77人、情報通信業が74人と続き、特定の業界に偏ることなく幅広い分野へ進出している。一方、職種別では、事務従事者が408人と全体の半数以上を占めて、多数となっている。次いで情報処理・通信技術者が73人、教員が72人、専門的・技術的職業その他が61人、保健師・助産師・看護師が59人である。このデータから、修了者は多様な業種において、主に事務職や技術職、教育・医療などの専門職として社会で広く活躍している実態がうかがえる。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>実際に、採用した企業からは「貴学のデータサイエンス教育を受けた学生は、専門知識と実践力を兼ね備えており、全体的に情報活用力レベルが高いと感じます。データサイエンス副専攻として学んだことを土台とし、弊社入社後にデータサイエンティストやITエンジニア、ITコンサルタントとして即戦力となり、高いパフォーマンスを発揮されています」との声が寄せられている。</p> <p>企業の声に「データサイエンス副専攻」の言及があるように、全員が基礎を身につけることは達成したものの、応用力や実践力の差が生じるため、今後はリテラシーレベルに続く応用基礎レベルやデータサイエンス副専攻等を通じて高度なスキルを身につける機会を拡充する必要がある。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスのスキルを学生自身の専門分野(法学部の場合は政策提言、経済経営学部の場合はビジネスアイデアの構想など)と直接結びつけるプロジェクト課題を設定し、社会課題解決に向けた「価値創造」の意義を実感させている。</li> <li>・最新のAI関連ニュースを題材にした「ニュースレター形式の課題」を定期配信し、学生のキャリアや経験と紐づける内省的な問いを投げかけることで、自ら学ぶ楽しさを刺激している。</li> <li>・学生にとって身近なロールモデルとなるスチューデント・アシスタント(SA)が各グループの学習に伴走し、心理的安全性の高い対話型の協働学習(LTD等)を実施することで、他者と共に学ぶ楽しさを提供している。</li> <li>・唯一の正解が存在しない「AI倫理」等のテーマにはジグソー法を導入している。個人の内省から始まり、各学生が「エキスパート」として独自の知見を持ち寄り解決策を共創し、クラス全体の「集合知」へ接続する一連のプロセスを通じ、社会課題を主体的に探求する楽しさと意義を体感させている。</li> </ul>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員がクラス全体の進行と専門的な設計を担い、SAが各グループに密着して個別最適なピアサポートに集中する「教員主導・SA伴走体制」を導入し、大規模授業においても学生の理解度に応じたきめ細やかで分かりやすい指導を実現している。</li> <li>・難解なAI倫理等の課題を「分かりやすく」するため、ジグソー法の活動において「仕組み→影響→対策」という思考のフレームワークや発表テンプレートを事前提示する「構造的な足場かけ」を行い、学生の認知的な負荷を軽減している。</li> <li>・ジグソー法での活動直後に提出される学生の振り返りを、生成AIを用いて迅速に分析・要約し、授業後速やかにクラス全体の「集合知」としてLMSでフィードバックすることで、最新技術を踏まえたより教育効果の高い授業方法を確立している。</li> <li>・社会の変化を踏まえ、生成AIを単なる効率化ツールではなく「思考を深化させるパートナー」として位置づけ、授業内でプロンプト作成やファクトチェックを実践的に学ぶ「生成AIワークショップ」を実施している。</li> <li>・学習のユニバーサルデザイン(UDL)の観点から、生成AIを活用した「解説Podcast(音声教材)」や「24時間オフィスアワー(学習支援チャットボット)」を開発しています。また、授業後の振り返りも生成AIで迅速に要約して「集合知」として即時フィードバックするなど、最新技術を用いて個別最適で教育効果の高い授業環境を確立している。</li> </ul>